

【ねがいましては】

平成25年5月24日

KYOWA SCHOOL

第271号

「きめつけ」

勉強に苦しんでしまう子どもたちに多く見受けられるものに、「きめつけ」があります。例えば、かけざんは必ず大きな答えになる。わりざんは小さくなる。たすと大きくなる。ひけば小さくなる。私たちの生活の中で、極々当たり前のことのような世界です。しかし、突如、小数や正負などが現れ、そのルールは微塵に打ち砕かれます。

$10 \times 5 = 50$ であったのが、 $10 \times 0.5 = 5 \dots$ 子どもたちにとって、ひとつの分かれ道にさしかかります。学校では、図を用いてその理由を説明していますが、ここで子どもたちの性格が大きく左右していると私は考えています。

新しい世界の物語なのだとかきまえている子たちには、すんなりと入っていきます。しかし、そんなはずはない、どう考えてもかけるってことは大きくなるはずだ……。固執した感情がしっかり壁となって立ちほだかります。

そうこうしながら悶々とした時間を過ごしているうちに、授業は終了します。

どちらも真剣に考えています。まじめに時間を使っているのです。ここで迷うことが悪いことなのだとしたら、世の名だたる研究者たちは、すべて悪い方々になってしまいます。授業後に行なわれるテスト……。この結果で良い悪いが判定されてしまうことが、子どもたちの勉強嫌いをさらに助長してしまいます。指導する側が、その子の感情の動きにまでしっかりとアンテナを張る必要があります。時間をかけながら、少しずつ理解していこうとするタイプの子たちは、ほとんどが犠牲者になってしまいます。

花粉症と同じで、その子その子で症状の出かたは違うのですが、「わたしはバカなのだ」と、自分を決めつけてしまう子がいます。つまり、間違えても間違えても、根気よく理解を重ねていく子もいますが、間違いが重なるたびに、自分のこころの中のコップの水がどんどん増えていき、あつという間にいっぱいになってしまう。そして次の瞬間、「わたしはバカなのだ」というとんでもない決めつけ症状が現れます。つまり花粉症の発症と同じです。その後は常に弱気一遍等な感情が全てを支配してしまいます。きっと私はどんな勉強をやってもダメに違いない……。

ある新聞に載っていた記事の中に、いじめに関するものがありました。「人のこころはコップに満たした水と同じなんです。このくらいでは死なないと思って、小さいいじめの言葉を言ったとします。でも、もう相手のこころがいっぱいだったら、その言葉が最後の一滴になってしまうかもしれません。」

私はその記事を読んだ時、勉強で「こわいよー」って、毎日のように苦しんでいる子たちのこころを見たような気がしました。まさに、『死』にまでは行きつかなくても、毎日のように苦しんでいる子たちがたくさんいるということ。

勉強の世界で、コップから溢れ出てしまった子たちは、毎日のように恐怖に包まれながら生活しています。ひとたび教室から出れば、跳びはねて元気一杯に振る舞う子たち……。

勉強の世界で、コップの水を溢れさせないようにするには……。テストという評価をなくすことです。合えば良い、まちがえれば悪いといった定義を廃止すべきだと思います。

大切なことは、その子とその算数の勉強をしていた時に、どれだけ真剣であったかというこころの姿勢です。わからなければ真剣に「わかりません」と発言すべきだと思います。なぜなら真剣に取り組んで出てきた「わかりません」は、世の大科学者たちが歩んできた道そのものだからです。

けっしてあきらめない、へこたれない。そんなこころの土台を築いてあげることが真の教育者のあるべき姿だと思うのです。

そして、ご家庭で様々な言を発していらっしゃるお母さま方にも、同様に教育者としての言を求めたいと思います。

もうお子さんはコップ一杯になってしまっているかもしれません。そんなお子さんに、「あなた、こんなやさしいこころもできなかったの、バカじゃないの。」「何回同じこと言わせるの、早く〇〇しなさい。」「今度成績下がったら、承知しないからね。」

春休み中、義援金講習に多くの小学生が来てくれました。それぞれが全く違うバラバラなことをしています。中には九九が原因で違ってしまった高学年の子もいます。5年生であっても、2ケタひく1ケタの筆算をしている子もいます。でも誰ひとり、その現場を見、相手を傷つけるような言動をする子はいません。一題一題、私の手書きでやってくる子も真剣です。その瞳から聞こえてくるものがあります。「ねえ先生、ここが学校だったらいいな、ここでこうやってこつこつと向かっていたいな。」

どうぞ安心してください。ここはあなた方がこころからニコニコして向かうことのできる場所ですよ。勉強ってね、わかることの楽しさを覚えることなんだよ。勉強はね、誰も気づかない、なぜなんだろうって思うことがあったら、とことん向かっていい世界なのだよ。教科書どおりに決められた時間で覚えたり、競争させられたりする世界ではないのだよ。

さて、きょうも「きめつけ」で苦しんでいる子たちを助けてあげられたらいいな。だって、すごく嬉しそうな表情をするからね。そしてみなさんも、そんな子たちをいっしょに助けるお手伝いをしてくださいませんか。

そんな学校に、きっといじめなど無いにちがいないから……。ありがとうね。